

8月学習会の案内 第54回「資本論を読む会」

DAS KAPITAL

日時 8月28日(月曜日)午後6時30分 Zoomで開催

次回から「第22章 剰余価値の資本への転化 第1節 拡大された規模における資本主義的生産過程。商品生産の所有法則の資本主義的領有法則への転換」[岩波文庫(三)p122-138]に入ります。



次回から第22章 剰余価値の資本への転化

第7編「資本の蓄積過程」に入り、今月の「読む会」は「第21章 単純再生産」をやりました。内容的には、特に新しいマルクスの論理展開があるというところではないと思うのですが、やはり書かれ方が難しいというのが第一印象ですね。

参加者はいつもの10名で議論しましたが、とくに熱く議論になったような箇所はありませんでした。「社会は、消費することをやめることができないと同様に、生産することをやめることもできない。…それゆえに、あらゆる社会的生産過程は、同時にまた再生産過程である。」という出だしで始まります。レポーターが気になったのは、マルクスの移民問題に対する認識です。思い出せば「第8章 労働日」でも出てきました、この章は2021年1月から4月まで4回やりましたね。イギリスの工場立法、標準労働日のための闘争なんかが印象的です。

今回は上の表記にあるように「第1節 拡大された……」と何と長い題名でしょうか！ レポーターはKaiさんです。よろしくお願いします。

懇親会は、少しマンネリ化しましたかね？ 議論沸騰することもなく楽しく過ごしました。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

レポーターから anak

第7篇 資本の蓄積過程 第21章 単純再生産

p102・社会は、消費することをやめることができないと同様に、生産することをやめることもできない。…それゆえに、あらゆる社会的生産過程は、同時にまた再生産過程である。・生産の諸条件は、同時に再生産の諸条件である。

p104(後払い)・労働者は、剰余価値と同様に、可変資本をも、労働賃金の形態で彼の手へ環流する以前に生産している。彼は、たえずこの原本(可変資本)を再生産するあいだだけしか使用されない。

p107-110・単純再生産は…単に可変資本部分のみではなく、総資本にも及ぶ驚くべき変化を引き起こす。

p110-113(労働者の生産的消費と個人的消費)・労働者の行う消費は二様である。

・第一の消費は…資本の動力として行動＝資本家の生活

第二の消費では、生産過程の外部で生活機能を行う＝労働者自身の生活。

・資本家は…労働者の個人的消費をできるかぎり必要物に制限する。

労働者階級の永久化に必要な部分のみを生産的と見なす。快樂のための消費は、不生産的

p114-118(労働者階級の再生産・移住)

・労働者階級は、死んだ労働用具と同様に資本の付属物である。個人的消費も資本の再生産過程の一要因にすぎない。(機械労働者の移住の禁止)※1815年まで・労働者階級の再生産(機械労働者の熟練の伝達と累積。

p118-122(二種の機械)死んだ機械と活きた機械装置…人間機械装置のこと

(まとめ)p122・資本主義的生産過程は、…商品を生産するのみではなく、剰余価値を生産するのみではなく、資本関係そのものを、一方には資本家を、他方には賃金労働者を、生産し、再生産するのである。